

■エイズの起源

ジャック・ペパン著、山本太郎訳

1981年に米国で初めて患者が報告され、30年間で2900万人以上の死者を出したエイズ。すべてはその約80年前、中部アフリカの奥地でチンパンジーの狩猟や解体をする人の数人が、サル免疫不全ウイルスに感染したことで始まった。

エイズ研究で知られる著者は本書で、起源と拡大経路の謎に鋭く迫る。

ウイルス学や分子生物学、凍結血液サンプル、人口統計など、あらゆる証拠を基にパズルの空白を埋めていく。

感染拡大の背景には、欧州列強による植民地支配があった。熱帯病に苦しむ欧州人は自らの健康を守るため、周囲のアフリカ人が「病原体の貯蔵庫」になることを防ぐと住民医療を試みた。だが、滅菌の不十分な注射器の使用



エイズの起源

ジャック・ペパン 山本太郎訳

みすず書房

い回しが感染を広げた。貧困ゆえの売春がはびこったことも拍車をかけた。最悪のウイルスの流行が、アフリカ近現代史と直結し、さらに米国へ運ばれた道筋を見事にあぶり出した一冊。

(みすず書房、4200円)